

施設の長寿命化などに補修材『ウルトラパッチ』が大きく貢献

ルポ

水管橋等漏水補修で採用

広島県企業局

断水・溶接困難現場に有効

広島県企業局は、水管橋やピット内の露出配管などの補修・長寿命化対策の一環として、紫外線硬化型のFRP（ガラス繊維強化プラスチック）シートの補修材（阿南電機製、製品名「ウルトラパッチ」）を採用し、大きな成果を上げている。本紙では製品の採用背景や現状、今後の採用予定などについて、同局の担当者にルポした。（大阪新聞部・石上和弘）



「ウルトラパッチ」を貼り付けて紫外線照射で硬化



後藤課長



岡田部長

和49年4月から給水を開始しており、施設の一部で老朽化が進んでいる。

「特に水管橋やピット内配管では、腐食で管の肉厚が薄くなり、溶接での補修はスペースな

どの問題で、従来の補修工法では困難な現場もあります。通水しながらの補修が求められ、これらの補修方法を検討していたところ、『ウルトラパッチ』の製品紹介を受けました」と説明するのは、岡田和行・同局技術部長。

「ウルトラパッチ」は、管路などの腐食がある箇所にFRPシートを貼り付け、紫外線照射で硬化して補修する工法で、採用実績が近年増えてきている。

「ウルトラパッチ」は断水や溶接をせず、漏水箇所を補修できます。従来の補修工法では対応が難しい現場にも有効で、機会があれば採用したいと考えていました」（岡田部長）。

同局は平成26年度、「ウルトラパッチ」をの300水管橋で初採用。市に管理委託している

施設でも、市と協議の上、平成27年度に立坑内配管管路（φ500、φ400）、平成28年度に海底管立ち上がり部ピット内配管（φ500、φ600）、φ250水管橋で採用した。

後藤博光・同局水道課長は「漏水補修した管種は鋼管でしたが、いずれも断水を伴わずに施工することができました。現在のところ、補修箇所では漏水が発生しておらず、問題ありません」と説明する。

同局では平成29年度もφ350水管橋で採用を予定しており、一県内には水管橋が122カ所あります。漏水の危険性が高い現場などでも、予防保全的に採用していきたいと考えています」（後藤課長）と語る。

岡田部長は「今後は水運用状況などを踏まえ、『ウルトラパッチ』の耐久性や耐用年数などを検証していきたいと思えます。これらの情報提供とともに、より安価な価格設定や専門業者以外での施工体制などに期待したいですね。いずれにしても、施設の長寿命化などに有効な新技術などについては、積極的に情報収集しながら、状況に応じて採用する一方、職員の技術研修などもさらに充実させていきます」と強調した。